

常陸大宮市トンネル長寿命化修繕計画の一部改訂内容について

○新技術活用方針 9ページ 追加 赤字が追加文

今後、長寿命化修繕計画に基づいて点検、修繕を実施していくが、点検方法、施工条件、対策工法の施工後の耐用年数、最適な工法等について継続的に検証を実施していくことが重要となる。

トンネルの補修に関わらず、新たな点検、修繕工法が開発されており、新技術、新工法(NETIS)の採用により、コストの縮減等を図れる可能性がある。

流れとして、

- ・新技術活用機会が増えると、実際の効力等のデータが得られる。
- ・事後評価の実施につながる
- ・活用、評価により技術改善のヒントが得られる。
- ・有用な新技術は現場での普及が促進される。
- ・促進によるコスト削減、または更なる技術の改良が期待できる。

以上一例ではあるが、新技術採用においてのメリットは期待できるため、継続的に検討を実施していく。

検討内容

点検・診断時のトンネル点検車による点検作業時間を縮減できる技術（スクリーニング等）の活用、調書・図面作成では点検作業に対する新技術等と併用して調書・図面作成へデータをインポートすることで作業手間を縮減できる技術の活用といった効率的に実施できる新技術を積極的に活用することを基本とするが、現時点では従来の点検費用より新技術を活用した場合の点検費用の方が高価となる状態である。そのため、将来的に新技術の活用実績を積み重ねることで、技術単価の縮減に繋げ今後10年程度で総額100万円程度の点検費用縮減を目指す。

修繕時には、詳細設計時に各トンネルに適した新技術を検討し実施することで修繕コスト1%程度の縮減を目指す。